

## 災害発生時の衛生管理について



震災で災害を受けた地域では、消化器系感染症（ノロウイルス等による感染性胃腸炎）や呼吸器系感染症（インフルエンザ）、あるいは食中毒が発生する可能性が高くなりますので、衛生管理に注意し、病気を予防することが大切です。

避難所にいらっしゃる方だけでなく、自宅で片づけをされる方や、ボランティアに行かれる方も以下の点に注意して感染症や食中毒の予防に努めましょう。

### 1. 手洗い・マスクの着用について

- (1) トイレの後、汚物の取扱い後、調理や食事の前には、石鹸と流水でしっかり手を洗う。
- (2) 流水がない場合は、逆性石けん液（殺菌消毒液 / 市販されています）を手にもみ込むようにして、その後乾燥させることである程度の効果が期待できます。また、他の消毒液がある場合は、それらを上手に活用しましょう。また、手の爪を短く切っておくことも清潔保持に効果があります。
- (3) 外出から帰ったときは、必ず、手洗いとうがいをを行う。うがい液がない場合は、水または塩水などで代用する。
- (4) せきが出る場合はマスクを着用する。

### 2. 食べ物について

- (1) 調理をする場合は清潔に努め、できる限り衛生的な環境で、新鮮な材料、清潔な器具によって調理する。
- (2) 生ものは避けて、加熱したものを食べるようにする。
- (3) 調理したものは、早めに食べるようにする。やむを得ず保管する場合は、再加熱をしっかりと行う。
- (4) 食品は、温度が上がらない冷暗所に保管する。
- (5) 食品のある場所に、ペットなどの動物を近づけないようにする。
- (6) 湧水や井戸水は、細菌などによる汚染の可能性があるので、飲まないようにする。やむを得ない場合は、必ず煮沸する。
- (7) 提供された食品は、消費（賞味）期限内に食べる。

### 3. 下痢や嘔吐物の処理について

- (1) マスクや手袋を着用し、ペーパータオル等で下痢や嘔吐物を拭き取り、ビニール袋に入れ、しっかり封をして廃棄する。
- (2) 汚染された場所の消毒には次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）が有効です。家庭用塩素系漂白剤の塩素濃度は約5%ですので、以下を目安に消毒液を作ってください。  
拭き取り用：水1リットルに対しペットボトルキャップ 1杯  
汚れがひどい場合：水1リットルに対しペットボトルキャップ 4～5杯

### 5. その他

- (1) できる限り休養を取り、具合が悪くなったら、早めに医師に相談しましょう。
- (2) はだしで砂や土の上を歩かないようにしましょう。
- (3) 蚊に刺されないように肌の露出を減らし、虫よけスプレーなどをうまく使用しましょう。



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう



県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 29	32	百日咳	→ 1	1
RSウイルス感染症	↑ 13	7	ヘルパンギーナ	↑ 16	9
咽頭結膜熱	↑ 26	13	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↓ 57	72
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑ 73	36	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 283	265	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 9	16
水痘	↓ 11	17	細菌性髄膜炎	↑ 1	0
手足口病	↓ 8	10	無菌性髄膜炎	→ 0	0
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 28	29	マイコプラズマ肺炎	↑ 6	4
突発性発しん	↑ 41	34	クラミジア肺炎	→ 0	0
			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	↑ 3	0

報告が多い感染症  
 感染性胃腸炎  
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎  
 流行性耳下腺炎

大きな流行が発生又は継続しつつある地域  
 咽頭結膜熱 : 宇城  
 伝染性紅斑 : 宇城  
 流行性耳下腺炎 : 山鹿

保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)
熊本市保健所	3		4	13	49	5	1	13	6	0	2	11		9			4		3
山鹿保健所	1				13			1	4	0	0	5	*	*					
菊池保健所			4	6	57	2	2	2	5	1	2	17							
阿蘇保健所										0	0		*	*					
御船保健所				7	8					0	0		*	*					
八代保健所	3			4	32			4	5	0	2	6							
水俣保健所	10		1		6	1			4	0	0		*	*					
人吉保健所	4			7	25		2			0	1	2	*	*	1				
有明保健所	1	5	2	7	69	3	1	2	8	0	1	12					2		
宇城保健所	1	2	12	15	7			5	3	0	1	3	*	*					
天草保健所	6	6	3	14	17		2	1	6	0	7	1							
計	29	13	26	73	283	11	8	28	41	1	16	57	0	9	1	0	6	0	3

年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)

インフルエンザ定点	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	29	0	0	1	2	1	0	1	1	0	5	4	4	1	1	4	2	2	0	0	0
小児科定点年齢	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	13	2	4	5	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	26	0	2	10	3	2	2	1	3	0	1	0	1	0	1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	73	1	2	4	4	9	7	10	6	6	4	5	11	0	4						
感染性胃腸炎	283	2	24	54	47	23	29	16	15	10	12	9	23	5	14						
水痘	11	1	0	4	1	0	1	1	0	1	0	2	0	0	0						
手足口病	8	0	1	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0						
伝染性紅斑	28	0	1	1	7	4	4	4	0	3	1	0	3	0	0						
突発性発しん	41	2	22	15	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0						
百日咳	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0						
ヘルパンギーナ	16	1	4	1	3	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎	57	0	0	5	6	8	6	11	6	5	5	1	4	0	0						
眼科定点年齢区分	合計	0~5カ月	6~11カ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	9	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1	1	0	0
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
マイコプラズマ肺炎	6	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1				
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎に注意しましょう

今週のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は73件と増加しており、幼児~学童のお子さんからの報告が多くなっています。警報レベルに達している地域はありませんが、宇城、天草と報告が多くなっています。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは、A群レンサ球菌という細菌が感染することにより、高熱・のどの痛みを主症状とする急性の感染症です。いずれの年齢でも起こり得ますが学童期のお子さんに多く、春から夏、及び冬の2つの時期をピークとして流行がみられます。主な症状はおよそ1週間ほどで改善しますが、リウマチ熱(主な症状として高熱、関節炎、紅斑、心炎)や急性糸球体腎炎(肉眼的血尿、高血圧、むくみ)などの合併症をおこすことがありますので注意が必要です。手洗い・うがいなどの一般的な予防対策が有効ですので、しっかり行って予防に努めましょう。

